

令和6年度 第1回

福岡市認知症の人にもやさしいデザインのガイドライン化検討委員会 議事録

日時 : 令和6年8月20日(火) 13:30~15:30

場所 : 福岡市認知症フレンドリーセンター

出席者 : 佐藤委員長、志賀委員、柴田委員、定村委員、中牟田委員、後藤委員、隈元委員、柳委員
会議次第:

1. 開会: 開会の挨拶(事務局)

2. ガイドライン化検討の概要について

資料1: 認知症施策について説明(事務局)

資料2: 事業概要説明(事務局)

質疑: なし

3. 議事

(1) 委員長・副委員長の選出

委員長に佐藤委員、副委員長に小原委員を選出

(2) 認知症のデザインの導入実績・橋本駅駅前広場事後評価計画

事務局: 議事(2)認知症デザインの導入実績・橋本駅駅前評価事業評価計画について概要、資料3説明

委員長: 全体として普及するポイント、今後の進め方について議論したい。

委員: 認知症デザインは新築には導入しやすいが改修は難しい。博多区役所や地下鉄など公共施設には導入が進んでいるが、民間介護福祉施設はまだ少ない。成果が期待できなければ導入しづらいため、モデル施設として取り組む施設を募ってはどうか。

委員: 自施設を見て回ったが、環境を生かしてない部分があった。少しずつ取り入れると職員の意識も変わる。これまで経験を基に利用者が分かりやすい場所に目印をつけていたが、根拠に基づいた情報を導入すれば利用者にとって過ごしやすい環境が増えていくと思う。

事務局: トイレのサインはホームページで公表しており、もっとPRをしていきたい。

委員: 認知症デザインを導入した施設の職員がどのように感じたかを知りたい。現場視点を入れることで、デザインを定着させることができる。

委員長: この調査における客観的な評価を検討することと同時に、経験的な評価の必要性があるかについて掘り下げたい。

委員: 認知症デザインはとてもわかりやすい。勤務先でもデザインを導入できないか検討している。病院等の改修では、高齢の方がわかりやすく、過ごしやすいという視点が重要。

委員長: そこは大きなポイント。記号の段階にはアイコン・インデックス・シンボルと3つの段階があるが、今までのピクトグラムは大体インデックスに相当する。それを認知症の人はもう少し具象的なアイコンに近付けた方がわかりやすいが、具象的は直接的で敬遠する人もいる。それをデザインでカバーするのがポイントで、認知症のトイレサインはバランスが良く、抵抗なく受け入れられている。その中で福岡市がどう判断するかが今回の課題。その整理の仕方を検討したい。

委員: 今後、屋外にデザインを広げることを踏まえれば、若年性の方、初期症状で不安定な方など、ターゲットを意識したものがあると良い。ピクトグラムも、高齢者が理解できれば若年層も理解で

きると思うが、それでいいのか検討が必要。

委員長：確かに若い人たちのデータはない。高齢者に限った表現になっていたため、確認が必要。

委員：大きく2つ。1つは、認知症デザインの導入が進む中、具体的評価、特に悪い評価を聞きたい。例えば、トイレのサインがリアルすぎるなど。建物の目的や雰囲気が異なる中、一律のサインがいいのか。また、トイレサインの色は、青・赤・緑で、男・女・車椅子用を分けているが、色覚障がいがあると区別が難しくなる。認知症も含め色の検証が必要。もう1つ、認知症デザインの30のポイントは、主に高齢者施設がターゲット。屋外空間では安全に移動できるか、自立的に動けるかが重要。そのため、屋内を想定した手引きの延長として屋外の整備指針を作るのはすごく危険。都市計画、土木系の計画研究所の調査によると、信号で止まらない、信号を見ない、止まる位置がわからない、その次に、道がわからなくなるなど安全性に関する指摘が多く、今回の検討ポイントとなる。また、橋本駅駅前広場では黄色の誘導ブロックを目立たせる黒い縁取りや安全性を高めるオレンジの移動ラインがあるが、それぞれが主張し煩雑な空間になっている。

委員：ガイドライン化の課題は、屋外空間・施設空間にどのような基準をどこまで入れるか。英国スターリング大学 DSDC では、施設の中に関する配慮は非常によく、知見は蓄積されている。だが、英国でも屋外に関してはまだ知見がない。例えば、歩行空間はできるだけ華美な模様にはしない、滑らない反射しない素材にする等があるが、基本的にはコントラストをつけることが非常に大事。しかし、コントラストをつけすぎないようにする項目もある。橋本駅駅前広場は、誘導ブロックを目立たせるために、黒いラインを入れているが、認知機能の低下した人からすると溝に見えてしまう。また、マンホールの蓋が目立たないようにする点もポイントであった。このガイドラインに基準を盛り込むことで底上げはできるが、どの程度具体性のある基準として入れられるのか。マニュアルに掲載されて、現場が混乱しないように議論したい。

委員：堤公民館の改修では館内がすっきりした。サインやコントラストをつけ、ノイズがないように掲示物を整えると効果があり、施設をどう管理をするかも重要。例えば、利用者からの利用しやすくなったという評価の積み上げがデザインの普及に役立つ。また、地下鉄では認知症デザインのトイレに目が行く一方、そこばかり強調されているという点でバランスを欠いている。しかし、認知症デザインのトイレは安心感があり、そういった声をモニタリングしていただきたい。

委員長：この作業では、各担当部署でバラバラにならないように誘導したい。根拠のないことをしないことが大事。また、互いにコミュニケーションを密接にしておくことが必要。例えば、通常防火用水設備は飛び出ているが、七隈線では各部署が連携し壁の中に入り込んでいる。また、コントラストをつけすぎないのは大事な観点。全体としてコントラストをつけすぎず、目立たせるところは目立たせる、そういう判断が必要。その判断を専門の立場から考えていきたい。

（3）導入の課題、評価項目の抽出について

事務局：概要、資料4説明

委員長：資料4は国交省のガイドラインからの抜粋とのことだが、輝度という表現は光源の単位で、それを輝度比やコントラストと表現し、コントラストを見るところとしているが、言葉の定義が必要。

事務局：国交省のガイドラインの表現をそのまま転記している。

委員長：色の明度・色相・彩度の順番で書いているが、色相・明度・彩度があるべき順番。明度を強調したいために明度を先に持ってきているのか、何か意図があるのか確認が必要。現場で採用しやすいということがポイントになる。

委員：屋外の認知症デザインと施設内のデザインでは物差しが違う。今回は施設整備マニュアルに収載

するのは認知症デザイン手引きを反映すると考えて良いか。今回は技術的な課題や事例が主となったため、技術検討部会を設置し、そこでの検討結果をここで議論すると良い。本委員会ではユーザー環境、具体的な環境がどうなのかという話も含めた検討が大事。

事務局：施設整備マニュアル改訂に反映するのは手引きの知見のみで、施設が主対象。屋外の知見は今後手引きの改訂に活用。次期施設整備マニュアル改訂は令和12年を想定。技術部会は検討する。

委員：資料3のトイレはスイッチが黒色の腰壁の上にあり見えにくい。腰壁を5センチあげるか、スイッチを下げると分かりやすい。橋本駅前広場は近くのグループホームや老協など意見を貰ってはどうか。若年性認知症の方にも散歩してもらい広場を見ていただきたい。また、施設整備担当者には、認知症デザイン導入施設で屋外にどんなサインが必要か、高さ、大きさなどを管理者等に聞くと計画しやすいと思う。

委員：色の選定を検討するには、色覚とか、弱視の方も含めグループホームと特養、盲養老、聴覚言語障がい施設などで聞くと違う視点がある。障がい者の担当部署と協力すると良い。

委員：認知症関連施設はリスク管理のため閉鎖的になりがち。安全な屋外空間づくりを参考にしたいが、例えば、外が見えると外に出たくなるから、あえて目が届かないよう小さな採光窓をつけるなど、利用者目線でない空間や建物がある。手引きのような空間ができれば良いので、マニュアル化するなど知識がない者でも判断する材料があると良い。

委員長：専門家でない人が相談できる組織があると良い。

委員：認知症の手引きを施設整備マニュアルに入れる際は、新しく章を作るのではなく、既存の項目に入れるのか。例えば、視覚的なことに関しては視覚障がい者という章立てするのか、あるいは網羅的に書かれている中に、認知症デザインを入れるイメージか。

事務局：施設整備マニュアルP110にトイレの基準が記載されている。事務局案では、まず載せるべき基準を考えた際に、どこの施設に載せるかを精査する。例えば、全ての施設を対象にトイレにコントラストを設けるとした場合、「認知症の方に分かりやすいように」という主語を置いた上で、「床と壁に明確なコントラストを設けること」など書き込むことを想定している。また、高齢施設などに限定した方が良い場合は、掘り下げて記載し誤解が生じないようにしたい。

委員：設計のポイントの記載があるが、その下に認知症の方にはコントラストをつけ、トイレが見やすく、確認できるようにというような形の理解でよい。

事務局：全ての施設に入れるべきと考えた場合はそうなる。トイレのコントラストなどは全施設を対象にできるのかも含め検討が必要。

委員長：微妙なところ。例えば全部真っ赤なトイレもある。

委員：表現の自由と絡む部分もある。

委員：福岡ドームだったら、鷹がトイレに座っているようなピクトグラムで、博多の森だったらそのキャラクターのサインでもいいといった自由度が必要。

委員：とても重要なポイント。施設にあったコンセプトにアレンジして良いが、守らないといけないのは、人と便器がセットで表現されているかなど、要件を整理しなければいけない。

委員：ピクトグラムに関しては限定でないのも、施設整備マニュアルでも推奨型になるのではない。

委員：ピクトグラムは全部コラム扱いで良いと思う。コラムの中の基準を整理すれば良い。

委員：設計のポイントに考え方を書き、あとはコラムにするなど。基準で定めるのは難しい。

委員長：今日たくさんのご意見いただいた。本日の議事を終了する。

4. 閉会（事務局）